

● 免責

本書に記載された内容は、情報の提供だけを目的としています。したがって、本書を用いた運用は、必ずお客様自身の責任と判断によって行ってください。これらの情報の運用の結果について、技術評論社および著者はいかなる責任も負いません。

本書記載の情報は、2014年5月現在のものを掲載していますので、ご利用時には、変更されている場合があります。

また、ソフトウェアに関する記述は、特に断りのないかぎり、2014年5月現在でのバージョンをもとにしています。ソフトウェアはバージョンアップされる場合があり、本書での説明とは機能内容や画面図などが異なってしまうこともあり得ます。本書ご購入の前に、必ずバージョン番号をご確認ください。

以上の注意事項をご承諾いただいた上で、本書をご利用願います。これらの注意事項をお読みいただかずに、お問い合わせいただいても、技術評論社および著者は対処しかねます。あらかじめ、ご承知おきください。

● 商標、登録商標について

- ・ Microsoft, Windows は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標、または商標です。
- ・ 本書に登場する製品名などは、一般に各社の登録商標または商標です。なお、本文中に ™、® などのマークは特に記載しておりません。

はじめに ■

2年ほど前に仮想化がもてはやされたかと思うと、今はパブリッククラウド全盛の時代。パブリッククラウドで提供されるサービスを活用して、自社でのサービス提供までのリードタイムを短縮し、システム運用のためのランニングコストも削減する——。パブリッククラウドを利用すれば、データセンターやサーバーといった固定資産が不要になり、ROA (Return On Assets: 総資産利益率/企業業績を測る指標の1つ) の改善も期待できます。つい数年前まで、セキュリティ面での漠然とした不安からパブリッククラウドの利用を躊躇していた多くのIT部門が、コスト効率の面でパブリッククラウドを無視できなくなっています。

こうした流れの中、IT技術者に求められるスキルも大きく変わり始めています。パブリッククラウドの時代にITインフラ技術者は何を学ぶべきなのでしょう。

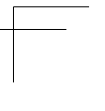
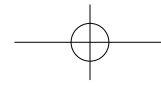
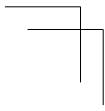
企業内のITインフラ技術者に与えられる課題は、①既存の社内ITシステムとパブリッククラウドをどう連携させるか、また、②社内のITインフラをいかにパブリッククラウドに近い形で運用してコスト削減を図るのかの2つだと思います。これらの課題に適切に対応するには、パブリッククラウドがどのような情報技術によって構成されているのかをまず把握しておく必要があります。

本書ではタイトルの通り、Windows Server 2012 R2の仮想化技術を扱います。しかし、単にWindows Server 2012 R2の個々の機能の理解をゴールにしているのではなく、Windows Server 2012 R2の仮想化技術を通して“クラウド技術”の基礎を学んでいただくことを目的に執筆しました。

世間に氾濫する“クラウド”という言葉は、その響きの通り、雲をつかむような抽象的なものです。しかし、クラウドの技術は抽象的なものではなく、皆さんがこれまで蓄積した知識と同様に理路整然とした技術要素によって構成されています。本書では、Windows Server 2012 R2の仮想化技術という具体的な題材をベースに、クラウド技術という抽象的な世界について理解を深めていただくことを目指しています。

最後に、本書で扱うWindows Server OSのバージョンについて触れておきます。パブリッククラウドの世界では、3か月程度の短いサイクルでサービスのバージョンアップが行われます。この短いバージョンアップサイクルに引きずられ、マイクロソフトのソフトウェア製品も1年程度の間隔(従来は3~4年)で新バージョンを出荷するようになりました。本書では、Windows Server 2012 R2をベースに執筆していますが、本書の最終校正時点で、すでに次のマイナーバージョンであるWindows Server 2012 R2 Updateが出荷されています。ただし、Windows Server 2012 R2 Updateでの改善点はユーザーインターフェイスのみで、サーバーOSとしての基本機能にほとんど変更はありません。ですので、安心してWindows Server 2012 R2 Updateを導入し、本書の内容を楽しんでください。

2014年5月
遠山藤乃



謝 辞 ■

私がこうして書籍を執筆できるのは、IT業界の方々からの貴重な情報のおかげです。技術的な知識だけで執筆しても、単なるリファレンスマニュアルになってしまいます。現場の声がなければ書籍として完結できません。いつも現場の声を聴かせてくださる情報システム部門の皆様、SIベンダーやデータセンター事業者の皆様、本当にありがとうございます。また、私の技術的な疑問をわかりやすく教えてくれる同僚の皆にも感謝します。最後に、当初の出版予定から2年も経過したにもかかわらず、気長に原稿を待ち続けてくださった編集の皆様には感謝します。

本書の対象読者

- ・ 仮想化環境とは何であるのかを、実際の環境を動かしながら理解したい方
- ・ Windows 8/8.1上の仮想化環境を活用したい方
- ・ Hyper-Vを通して、ネットワークやストレージ(記憶装置)の仮想化について基本事項を理解したい方
- ・ クラウド環境を支える技術であるSDN(Software Defined Network)やSDS(Software Defined Storage)の基本機能を理解したい方
- ・ 社内サーバーを管理されている方。これから社内または顧客向けに仮想化環境を構築、あるいは提案する必要に迫られている方
- ・ クラウド時代のITインフラ技術者として理解すべき事項の大枠をとらえたい方